

浜の活力再生プラン
令和 6 ～ 1 0 年度
第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	釧路市地域水産業再生委員会
代表者名	近藤 龍洋（釧路市漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	釧路市漁業協同組合、釧路市
オブザーバー	北海道釧路総合振興局

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	北海道釧路市（釧路市漁業協同組合の範囲） 対象漁業種類： 刺網漁業（ 1 2 経営体） ししゃもこぎ網漁業（ 1 7 経営体） ほっきがい漁業（ 5 経営体） つぶ簗漁業（ 7 経営体） その他漁業 （えびこぎ網漁業、かにかご漁業など） 漁業者数：正組合員 3 7 名 （令和 5 年 1 1 月 2 4 日現在）
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地域は北海道の東部に位置する釧路市にあり、二つの国立公園をはじめとする雄大な自然に恵まれた街であり、東北海道の中核・拠点都市として社会全体、経済、文化の中心的な機能を担っている。

釧路市の水産業は、北海道を代表する漁業生産拠点である釧路港で、最盛期には日本一の水揚量を誇るなど、地域経済を牽引してきており、主にスケトウダラやイワシなどが水揚げされ、また、全国でも数少ない捕鯨の基地となっている。この様な中、当地域ではかれい刺網漁業をはじめとする各種刺網漁業やししゃもこぎ網漁業、ほっき桁網漁業やつぶ簗漁業など沿岸域での漁船漁業が主体となっている。

近年は、マイワシ資源が好調であり、大中型まき網漁業等により水揚げも年々増加しており、釧路港の水揚の主体となってきている。

一方、沿岸漁業は、資源の減少に加え漁業者の高齢化や後継者、乗組員の不足により操業自体に支障きたしている。加えて近年の燃油や資機材の高騰により、厳しい漁業経営を強いられていることから、早急な対応が必要となっている。

このような中、漁業者の経営安定化を図るためには、引き続き「浜の活力再生プラン」を策定し、官民一体となって、従来から取り組んでいる資源管理型漁業の徹底や、地産地消を含めた消費拡大と付加価値向上の取組を一層強化するとともに、操業時における省コスト化対策として燃油使用量の削減を目的とした減速航行の徹底や、減少する漁業者への対応として、効率的な操業体制の確立と漁業の協業化等を検討しながら漁業所得の向上を図る。

当地域は、古くから、水産、石炭、紙・パルプの 3 大基幹産業が盛んであったが、近年は

どの産業も衰退している中で、炭鉱の閉山や紙・パルプ事業の縮小や撤退などにより、水産の依存度は高く、漁業の盛衰が地域産業へ大きな影響を及ぼす状況となっている。特にサケやサンマの漁獲量減少は、原材料の確保先を海外等含む他地域へ求めることとなり、輸送費等の経費増加や、地産の魚介類を使用した特産品の製造減少により地域産業の経営を圧迫する要因となっている。

また、漁業者の高齢化が進む中、経営者の7割に後継者が存在しなく、担い手の確保が重要な課題となっている。新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止していた、地元市民や学生を対象とした漁業出前授業等の開催や魚食普及活動を再開させ、漁業への関心を高める取組みが必要となっている。

(2) その他の関連する現状等

当地域の人口は、2023年現在で156千人と道内で6位の人口数となっているものの、男女を問わず、ほぼ全ての年齢階級層において転出超過となっており、特に10～20代の転出が最も多く、2050年には100千人を下回る予想がされている。この要因とされるのが、少子高齢化はもとより、基幹産業の衰退による地域経済の低迷が、他地域（特に都市圏）へ流出を促しているものと推測される。一方で、地域の特色として、夏季は冷涼な気候であり、雄大な自然を楽しみながら新鮮な食材を堪能できる地域として、近年は、移住や長期滞在の適地として注目されている。

今後は、地域が掲げる基本構想を基に、人口減少の歯止めと、地域経済の活性化への取組みが重要とされている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

水産資源の安定、魚価向上、漁労経費削減に係る対策の取組むため、引き続き「浜の活力再生プラン」を策定し、漁業所得の向上による漁家経営の安定と当地域の活性化を目指す。

1 漁業収入向上のための取組

水産資源の安定を図り、将来に亘り持続的な水揚げを確保するためには、資源維持・増大対策及び資源保護、更には漁業収入を維持できる単価向上対策が必要であることから、これらを実現するためには、ほっき貝、マツカワ等の種苗放流、ヒトデ等の害敵駆除、ししゃも、ほっき貝、けがにの徹底した資源量調査による漁獲限度量の設定のほか下記の取組を行う。

- ・神経締め等のより高度な活締め出荷による魚価向上
- ・ほっき貝やつぶの高規格・高鮮度出荷による魚価向上
- ・地場産鮮魚の知名度向上のため、釧路市が展開する「プライド釧魚」による釧路産魚介類のPR活動の実施
- ・魚食普及による消費・流通の拡大とPR体制の強化

2 漁業コスト削減のための取組

効率的で安定的な漁業経営確立を目指すため、次の取組を行う。

- ・省エネ機器等の導入による漁業用燃油経費の削減
- ・船体及び機器メンテナンスの実施による負荷軽減
- ・減速航行や漁場情報の共有化等、効率的な操業体制の構築による省燃油活動の実施
- ・以上のような2期目同様の取組みを継続実施しながら、基準年より5%の経費削減を見込む。

3 漁村の活性化のための取組

漁村の活性化のため、次の取組を行う、

- ・漁業人材確保のため、北海道漁業研修所による研修制度等を活用した漁業就業に必要な資格取得に対する支援を実施し、新規漁業就業者の育成・確保を図る。
- ・新規就業者の確保・若手漁業者の育成を推進するための漁協青年部・女性部・漁業士の活動を支援する。

(3) 資源管理に係る取組

- ・資源量調査による漁獲量の自主的制限の設定（ししゃも・ほっき貝・毛がに等）
- ・共同漁業権行使規則に基づく制限の徹底による資源保護（かれい類・ほっき貝等）

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和6年度） 所得向上率（基準年比）4.2%

漁業収入向上のための取組	・刺網漁業者12経営体は、これまでと同様に、漁獲されたかれい類やその他魚類の中から一定以上の魚体サイズで、特に活きの良いものを船上で選別・活締めを行う。活締め後は、速やかに酸化抑制効果が高いとされ高鮮度保持が可能な「窒素氷」を使用して低温管理した上で、サイズ別に仕分けした魚箱に梱包のうえ陸揚げすることで付加価値向上に努める。 また、活締めの方法もより高鮮度な技術の取得により他地域との差別化を図り付加価値向上に努める。 ・ししゃもこぎ網漁業者17経営体と漁協は、引き続き、研究機関等の協力による資源量調査を実施し、釧路・十勝管内の関係漁業者と漁協が合意のうえ、漁業者自らが漁獲上限量を設定した中で、計画的な操業に努めることにより資源管理を徹底する。加えて、漁期中、河口域での集魚状況や水温調査等から河川遡上時期を予測し、遡上が始まった時点
--------------	---

	で、自主的に操業の終了措置を講じることで産卵親魚の河川遡上を促進する。 また、漁業者と漁協は、地域団体商標登録されている「釧路ししゃも」の知名度向上に努める。 ・ほっき漁業者5経営体及びつぶかご業業者7経営体と漁協は、研究機関等と協力して資源調査を行うことで資源量を把握するとともに、漁協管理のもと禁漁区、殻長制限、漁獲量の上限を設定、適正な漁獲管理に努め、生産力が低下した漁場の再生と更なる生息域拡大のための漁場耕うんや、漁場以外の浅海域で発生、生息している稚貝や操業中に混獲された稚貝を適地に移植放流することで資源の維持増大を図る。 ほっき貝は、引き続き釧路産「ほっき貝」の知名度向上を図るべく、殻付き貝の高規格品の出荷に取り組む。 ツブは、引き続き、大型サイズを対象にフジツボなどの付着物を丁寧に除去した上で、高規格品として畜養水槽を活用し出荷調整を行うことで安定的な出荷体制を講じることがもとより、近年の海水温上昇に対応すべく冷海水装置の導入により、夏季の高水温時でも活力の低下を防ぎ安定した出荷を目指すことで消費拡大と付加価値向上を目指す。 漁協と全漁業経営体は、市内で開催されるイベント等に積極的に参加するとともに、釧路市が展開する「プライド釧魚」として水産業界が一丸となって、旬の鮮魚を市民や観光客に対し「釧路産」の試食・販売などのPR活動を行い知名度向上と販売促進に努める。また、市内の小中学校や長期滞在者等を対象に漁業出前講座や料理講習会等を開催し、魚職普及活動に努める。
漁業コスト削減のための取組	・全漁業者は、1ノット減速航行及び漁船エンジン回転数の低減により更なる燃油コストの削減に取り組む。 ・全漁業者、漁船の更新や省エネ対応等の環境対応機関への換装による燃油使用量減少による経費削減に取り組む。 ・全漁業者は、漁労経費削減と漁業収入の向上を目的とし、協業化等へ向けた取組みを実施する。
漁村の活性化のための取組	・SNS等を活用して地域の漁業の魅力をPRし、漁業への関心を深め新規就労者確保へ向けた取組みを実施する。 ・若手漁業者育成のため、漁協青年部及び漁業士の活動支援の実施。
活用する支援措置等	・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・漁業経営セーフティネット構築等事業（国） ・競争力強化型機器等導入支援緊急対策事業（国） ・浜の担い手漁船リース緊急事業（国） ・地域づくり総合交付金（道、市町村） ・釧路市水産業振興条例補助金（市）

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比） 5.7%

漁業収入向上のための取組	・刺網漁業者12経営体は、これまでと同様に、漁獲されたかれい類やその他魚類の中から一定以上の魚体サイズで、特に活きの良いものを船上で選別・活締めを行う。活締め後は、速やかに酸化抑制効果が高いとされ高鮮度保持が可能な「窒素氷」を使用して低温管理した上で、サイズ別に仕分けした魚箱に梱包のうえ陸揚げすることで付加価値向上に努
--------------	---

	める。 また、活締めの方法もより高鮮度な技術の取得により他地域との差別化を図り付加価値向上に努める。 ・ししゃもこぎ網漁業者17経営体と漁協は、引き続き、研究機関等の協力による資源量調査を実施し、釧路・十勝管内の関係漁業者と漁協が合意のうえ、漁業者自らが漁獲上限量を設定した中で、計画的な操業に努めることにより資源管理を徹底する。加えて、漁期中、河口域での集魚状況や水温調査等から河川遡上時期を予測し、遡上が始まった時点で、自主的に操業の終了措置を講じることで産卵親魚の河川遡上を促進する。 また、漁業者と漁協は、地域団体商標登録されている「釧路ししゃも」の知名度向上に努める。 ・ほっき漁業者5経営体及びつぶかご業業者7経営体と漁協は、研究機関等と協力して資源調査を行うことで資源量を把握するとともに、漁協管理のもと禁漁区、殻長制限、漁獲量の上限を設定、適正な漁獲管理に努め、生産力が低下した漁場の再生と更なる生息域拡大のための漁場耕うんや、漁場以外の浅海域で発生、生息している稚貝や操業中に混獲された稚貝を適地に移植放流することで資源の維持増大を図る。 ほっき貝は、引き続き釧路産「ほっき貝」の知名度向上を図るべく、殻付き貝の高規格品の出荷に取り組む。 ツブは、引き続き、大型サイズを対象にフジツボなどの付着物を丁寧に除去した上で、高規格品として畜養水槽を活用し出荷調整を行うことで安定的な出荷体制を講じることはもとより、近年の海水温上昇に対応すべく冷海水装置の導入により、夏季の高水温時でも活力の低下を防ぎ安定した出荷を目指すことで消費拡大と付加価値向上を目指す。 漁協と全漁業経営体は、市内で開催されるイベント等に積極的に参加するとともに、釧路市が展開する「プライド釧魚」として水産業界が一丸となって、旬の鮮魚を市民や観光客に対し「釧路産」の試食・販売などのPR活動を行い知名度向上と販売促進に努める。また、市内の小中学校や長期滞在者等を対象に漁業出前講座や料理講習会等を開催し、魚職普及活動に努める。
漁業コスト削減のための取組	・全漁業者は、1ノット減速航行及び漁船エンジン回転数の低減により更なる燃油コストの削減に取り組む。 ・全漁業者、漁船の更新や省エネ対応等の環境対応機関への換装による燃油使用量減少による経費削減に取り組む。 ・全漁業者は、漁労経費削減と漁業収入の向上を目的とし、協業化等へ向けた取組みを実施する。
漁村の活性化のための取組	・SNS等を活用して地域の漁業の魅力をPRし、漁業への関心を深め新規就労者確保へ向けた取組みを実施する。 ・若手漁業者育成のため、漁協青年部及び漁業士の活動支援の実施。
活用する支援措置等	・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・漁業経営セーフティネット構築等事業（国） ・競争力強化型機器等導入支援緊急対策事業（国） ・浜の担い手漁船リース緊急事業（国） ・地域づくり総合交付金（道、市町村） ・釧路市水産業振興条例補助金（市）

漁業収入向上の ための取組	・ 刺網漁業者 12 経営体は、これまでと同様に、漁獲されたかれい類やその他魚類の中から一定以上の魚体サイズで、特に活きの良いものを船上で選別・活締めを行う。活締め後は、速やかに酸化抑制効果が高いとされ高鮮度保持が可能な「窒素氷」を使用して低温管理した上で、サイズ別に仕分けした魚箱に梱包のうえ陸揚げすることで付加価値向上に努める。 - また、活締めの方法もより高鮮度な技術の取得により他地域との差別化を図り付加価値向上に努める。 ・ ししゃもこぎ網漁業者 17 経営体と漁協は、引き続き、研究機関等の協力による資源量調査を実施し、釧路・十勝管内の関係漁業者と漁協が合意のうえ、漁業者自らが漁獲上限を設定した中で、計画的な操業に努めることにより資源管理を徹底する。加えて、漁期中、河口域での集魚状況や水温調査等から河川遡上時期を予測し、遡上が始まった時点で、自主的に操業の終了措置を講じることで産卵親魚の河川遡上を促進する。 - また、漁業者と漁協は、地域団体商標登録されている「釧路ししゃも」の知名度向上に努める。 ・ ほっき漁業者 5 経営体及びつぶかご業業者 7 経営体と漁協は、研究機関等と協力して資源調査を行うことで資源量を把握するとともに、漁協管理のもと禁漁区、殻長制限、漁獲量の上限を設定、適正な漁獲管理に努め、生産力が低下した漁場の再生と更なる生息域拡大のための漁場耕うんや、漁場以外の浅海域で発生、生息している稚貝や操業中に混獲された稚貝を適地に移植放流することで資源の維持増大を図る。 - ほっき貝は、引き続き釧路産「ほっき貝」の知名度向上を図るべく、殻付き貝の高規格品の出荷に取り組む。 - ツブは、引き続き、大型サイズを対象にフジツボなどの付着物を丁寧に除去した上で、高規格品として畜養水槽を活用し出荷調整を行うことで安定的な出荷体制を講じることはもとより、近年の海水温上昇に対応すべく冷海水装置の導入により、夏季の高水温時でも活力の低下を防ぎ安定した出荷を目指すことで消費拡大と付加価値向上を目指す。 - 漁協と全漁業経営体は、市内で開催されるイベント等に積極的に参加するとともに、釧路市が展開する「プライド釧魚」として水産業界が丸丸となって、旬の鮮魚を市民や観光客に対し「釧路産」の試食・販売などの P R 活動を行い知名度向上と販売促進に努める。また、市内の小中学校や長期滞在者等を対象に漁業出前講座や料理講習会等を開催し、魚職普及活動に努める。
漁業コスト削減 のための取組	・ 全漁業者は、1 ノット減速航行及び漁船エンジン回転数の低減により更なる燃油コストの削減に取り組む。 ・ 全漁業者、漁船の更新や省エネ対応等の環境対応機関への換装による燃油使用量減少による経費削減に取り組む。 ・ 全漁業者は、漁労経費削減と漁業収入の向上を目的とし、協業化等へ向けた取組みを実施する。
漁村の活性化の ための取組	・ SNS等を活用して地域の漁業の魅力をPRし、漁業への関心を深め新規就労者確保へ向けた取組みを実施する。 ・ 若手漁業者育成のため、漁協青年部及び漁業士の活動支援の実施。

活用する支援措置等	・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・漁業経営セーフティーネット構築等事業（国） ・競争力強化型機器等導入支援緊急対策事業（国） ・浜の担い手漁船リース緊急事業（国） ・地域づくり総合交付金（道、市町村） ・釧路市水産業振興条例補助金（市）
-----------	--

4 年目（令和 9 年度） 所得向上率（基準年比）8. 7 %

漁業収入向上のための取組	・刺網漁業者 12 経営体は、これまでと同様に、漁獲されたかれい類やその他魚類の中から一定以上の魚体サイズで、特に活きの良いものを船上で選別・活締めを行う。活締め後は、速やかに酸化抑制効果が高いとされ高鮮度保持が可能な「窒素氷」を使用して低温管理した上で、サイズ別に仕分けした魚箱に梱包のうえ陸揚げすることで付加価値向上に努める。 また、活締めの方法もより高鮮度な技術の取得により他地域との差別化を図り付加価値向上に努める。 ・ししゃもこぎ網漁業者 17 経営体と漁協は、引き続き、研究機関等の協力による資源量調査を実施し、釧路・十勝管内の関係漁業者と漁協が合意のうえ、漁業者自らが漁獲上限量を設定した中で、計画的な操業に努めることにより資源管理を徹底する。加えて、漁期中、河口域での集魚状況や水温調査等から河川遡上時期を予測し、遡上が始まった時点で、自主的に操業の終了措置を講じることで産卵親魚の河川遡上を促進する。 また、漁業者と漁協は、地域団体商標登録されている「釧路ししゃも」の知名度向上に努める。 ・ほっき漁業者 5 経営体及びつぶかご業業者 7 経営体と漁協は、研究機関等と協力して資源調査を行うことで資源量を把握するとともに、漁協管理のもと禁漁区、殻長制限、漁獲量の上限を設定、適正な漁獲管理に努め、生産力が低下した漁場の再生と更なる生息域拡大のための漁場耕うんや、漁場以外の浅海域で発生、生息している稚貝や操業中に混獲された稚貝を適地に移植放流することで資源の維持増大を図る。 ほっき貝は、引き続き釧路産「ほっき貝」の知名度向上を図るべく、殻付き貝の高規格品の出荷に取り組む。 ツブは、引き続き、大型サイズを対象にフジツボなどの付着物を丁寧に除去した上で、高規格品として畜養水槽を活用し出荷調整を行うことで安定的な出荷体制を講じることはもとより、近年の海水温上昇に対応すべく冷海水装置の導入により、夏季の高水温時でも活力の低下を防ぎ安定した出荷を目指すことで消費拡大と付加価値向上を目指す。 漁協と全漁業経営体は、市内で開催されるイベント等に積極的に参加するとともに、釧路市が展開する「プライド釧魚」として水産業界が丸丸となって、旬の鮮魚を市民や観光客に対し「釧路産」の試食・販売などの PR 活動を行い知名度向上と販売促進に努める。また、市内の小中学校や長期滞在者等を対象に漁業出前講座や料理講習会等を開催し、魚職普及活動に努める。
漁業コスト削減のための取組	・全漁業者は、1 ノット減速航行及び漁船エンジン回転数の低減により更なる燃油コストの削減に取り組む。 ・全漁業者、漁船の更新や省エネ対応等の環境対応機関への換装による燃油使用量減少による経費削減に取り組む。 ・全漁業者は、漁労経費削減と漁業収入の向上を目的とし、協業化等へ

	向けた取組みを実施する。
漁村の活性化のための取組	・ SNS等を活用して地域の漁業の魅力をPRし、漁業への関心を深め新規就労者確保へ向けた取組みを実施する。 ・ 若手漁業者育成のため、漁協青年部及び漁業士の活動支援の実施。
活用する支援措置等	・ 浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・ 漁業経営セーフティーネット構築等事業（国） ・ 競争力強化型機器等導入支援緊急対策事業（国） ・ 浜の担い手漁船リース緊急事業（国） ・ 地域づくり総合交付金（道、市町村） ・ 釧路市水産業振興条例補助金（市）

5 年目（令和 1 0 年度） 所得向上率（基準年比） 1 0 . 2 %

漁業収入向上のための取組	・ 刺網漁業者 1 2 経営体は、これまでと同様に、漁獲されたかれい類やその他魚類の中から一定以上の魚体サイズで、特に活きの良いものを船上で選別・活締めを行う。活締め後は、速やかに酸化抑制効果が高いとされ高鮮度保持が可能な「窒素氷」を使用して低温管理した上で、サイズ別に仕分けした魚箱に梱包のうえ陸揚げすることで付加価値向上に努める。 また、活締めの方法もより高鮮度な技術の取得により他地域との差別化を図り付加価値向上に努める。 ・ ししゃもこぎ網漁業者 1 7 経営体と漁協は、引き続き、研究機関等の協力による資源量調査を実施し、釧路・十勝管内の関係漁業者と漁協が合意のうえ、漁業者自らが漁獲上限量を設定した中で、計画的な操業に努めることにより資源管理を徹底する。加えて、漁期中、河口域での集魚状況や水温調査等から河川遡上時期を予測し、遡上が始まった時点で、自主的に操業の終了措置を講じることで産卵親魚の河川遡上を促進する。 また、漁業者と漁協は、地域団体商標登録されている「釧路ししゃも」の知名度向上に努める。 ・ ほっき漁業者 5 経営体及びつぶかご業業者 7 経営体と漁協は、研究機関等と協力して資源調査を行うことで資源量を把握するとともに、漁協管理のもと禁漁区、殻長制限、漁獲量の上限を設定、適正な漁獲管理に努め、生産力が低下した漁場の再生と更なる生息域拡大のための漁場耕うんや、漁場以外の浅海域で発生、生息している稚貝や操業中に混獲された稚貝を適地に移植放流することで資源の維持増大を図る。 ほっき貝は、引き続き釧路産「ほっき貝」の知名度向上を図るべく、殻付き貝の高規格品の出荷に取り組む。 ツブは、引き続き、大型サイズを対象にフジツボなどの付着物を丁寧に除去した上で、高規格品として畜養水槽を活用し出荷調整を行うことで安定的な出荷体制を講じることはもとより、近年の海水温上昇に対応すべく冷海水装置の導入により、夏季の高水温時でも活力の低下を防ぎ安定した出荷を目指すことで消費拡大と付加価値向上を目指す。 漁協と全漁業経営体は、市内で開催されるイベント等に積極的に参加するとともに、釧路市が展開する「プライド釧魚」として水産業界が一丸となって、旬の鮮魚を市民や観光客に対し「釧路産」の試食・販売などのPR活動を行い知名度向上と販売促進に努める。また、市内の小中学校や長期滞在者等を対象に漁業出前講座や料理講習会等を開催し、魚職普及活動に努める。
--------------	--

漁業コスト削減のための取組	・全漁業者は、1ノット減速航行及び漁船エンジン回転数の低減により更なる燃油コストの削減に取り組む。 ・全漁業者、漁船の更新や省エネ対応等の環境対応機関への換装による燃油使用量減少による経費削減に取り組む。 ・全漁業者は、漁労経費削減と漁業収入の向上を目的とし、協業化等へ向けた取組みを実施する。
漁村の活性化のための取組	・SNS等を活用して地域の漁業の魅力をPRし、漁業への関心を深め新規就労者確保へ向けた取組みを実施する。 ・若手漁業者育成のため、漁協青年部及び漁業士の活動支援の実施。
活用する支援措置等	・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・漁業経営セーフティネット構築等事業（国） ・競争力強化型機器等導入支援緊急対策事業（国） ・浜の担い手漁船リース緊急事業（国） ・地域づくり総合交付金（道、市町村） ・釧路市水産業振興条例補助金（市）

（５）関係機関との連携

取組みの効果が十分に発現されるよう、行政（北海道、釧路市）、系統団体（北海道漁業協同組合連合会等）との連携を強固にして事業を推進するとともに、国の事業に関しては、北海道を通じて情報収集等を行い円滑な推進を図る。
--

（６）取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の実施状況及び効果の発現状況を自ら評価し、委員会はそれを踏まえた取組みの改善を検討するため、浜プラン評価検討委員会を毎年１回（４月）に開催し、その結果を会員会議に報告・審議し決定する。浜プラン評価検討委員会は、①事務局・事務局長各１名、②漁業者（各漁業１名）とし、会員会議で決定し、会長が委嘱する。

４ 目標

（１）所得目標

漁業者の所得の向上10%以上	基準年	
	目標年	

（２）上記の算出方法及びその妥当性

--

（３）所得目標以外の成果目標

燃料費の抑制	基準年	平成30年度～ 令和4年度 5中3平均	燃料費	63,376 (千円)
	目標年	令和10年度	燃料費	60,207 (千円)

新規漁業就業者の増加	基準年	平成30年度～ 令和4年度：	新規漁業就業者数	0人
	目標年	令和6年度～ 令和10年度：	新規漁業就業者数	5人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

(燃料費の抑制) 過去5年間（平成30年度～令和4年度）における燃油費実績額の5中3平均は63,376千円で基準値とした。 今期の浜プランでは、減速航行の徹底により使用量を基準年より5%削減が図られるものと想定し、燃油単価は基準年と同額と想定し、全船における目標年の燃料費を60,207千円とした。 (新規漁業着業者の増加) 過去の新規漁業就業者数は0人であり深刻な漁業者不足である。 漁業後継者・担い手対策として、就業しやすい体制整備を行う事により、令和6年度以降の目標として、員外従事者等に対しての漁協加入を促進し、毎年度1人（5年累計5人）の新規漁業就業者を目指す。
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
・浜の活力再生・ 成長促進交付金 (国)	競争力強化のため必要となる施設の整備、地方卸売市場の改良または整備を行い、衛生管理の向上や畜養等の関連施設を活用し、作業効率、水産物単価の向上を図る
漁業経営セーフ ティーネット構 築等事業 (国)	燃油高騰の影響が緩和され漁労経費の削減を図る
競争力強化型機 器等導入支援緊 急対策事業 (国)	省力・省コスト化・生産性向上に資する機器等の導入により、漁業経費の削減や所得の向上を図る。
浜の担い手漁船 リース緊急事業 (国)	中核的漁業者の所得向上に必要な漁船リースを支援
地域づくり総合 交付金 (道、市 町村)	道内各地の課題解決や地域活性化に向けた取組み支援
釧路市水産業振 興条例補助金 (市)	マツカワ資源増大対策等、漁業資源管理上で持続的な漁業操業を支援